

アランドロン主演

50

本記念作品

ALAIN DELON in  
**ZORRO**

人気最高ドロンが  
全世界をわかせた  
ヒーローに挑んで放つ  
剣と愛の  
ロマン・スペクタクル大作

# アランドロンの ゾロ

アランドロン  
オットビア・ピッコロ  
スタンリー・ベイカー  
エンツォ・チェルジコ  
ムスターシュ  
アドリアナ・アスティ

原作 ■ ジョンストン・マッカーレー  
〈邦訳・角川文庫版〉

脚本 ■ ジョルジョ・アルロリオ

監督 ■ ドゥッチョ・テッサリ

製作 ■ ルチアーノ・マルティノ

撮影 ■ ジュリオ・アルボニコ

音楽 ■ ガイド&マウリツィオ・デ・アンジェリス

主題曲(サントラ盤)RCA(シングル)/セフンシーズ(LP)

カラー作品/仏伊合作/東宝東和提供



# アラン・ドロンの ゾロ

カラー作品



## ■アラン・ドロンの主演50本記念大作「ゾロ」!

デビューいらい、華やかな人気と魅力でつねにトップの座を占めてきたアラン・ドロンの、その映画・主演50本目に自ら選んだ自信満々の最新作。製作費じつに12億円、撮影に5ヵ月以上をかけたこの映画は、製作中から話題を呼んでいたが、75年3月、パリとローマで一斉に公開されるや、爆発的大ヒットとなり、絶賛の拍手を浴び、現在、「ゾロ・ブーム」をまき起しているという。

## ■最も新しい、最も華麗なゾロの登場!

黒いソムブレロに黒マスク、黒マントをさっそうとひるがえし、「Z」のマークも鮮やかに、弱きを助け悪を倒し、風のごとく現われ風のごとく去ってゆく正義の快剣士＝ゾロ。世界20数カ国、5000万部以上を売りつづいた超ベストセラーのヒーローがみせる波瀾万丈の活躍は、これまで2度映画化されており、サイレント時代の1920年にダグラス・フェアバンクス、ハリウッド黄金期の1940年にタイロン・パワーと、当時のトップ・スターの主演でファンを熱狂させたがいままた、最も新しい、最も華麗なゾロが、当代きっての二枚目、アラン・ドロンによって誕生したのである。しかも、彼は初めて口ひげなしのゾロに大胆にも挑んだのである。

## ■絢爛たる剣と愛のロマン・スペクタクル!

野望に燃える陰謀家のウエルタ大佐の圧政にあえぐ新大陸のスペイン植民地ニュー・アラゴン。暗殺された前総督の甥ミゲルは赴任途中、ウエルタの放った刺客の凶刃に倒れたが、その場に偶然居合わせた親友ドン・ディエゴは、遺体に復讐を誓い、みずから新総督になりすまし、現地に向った。

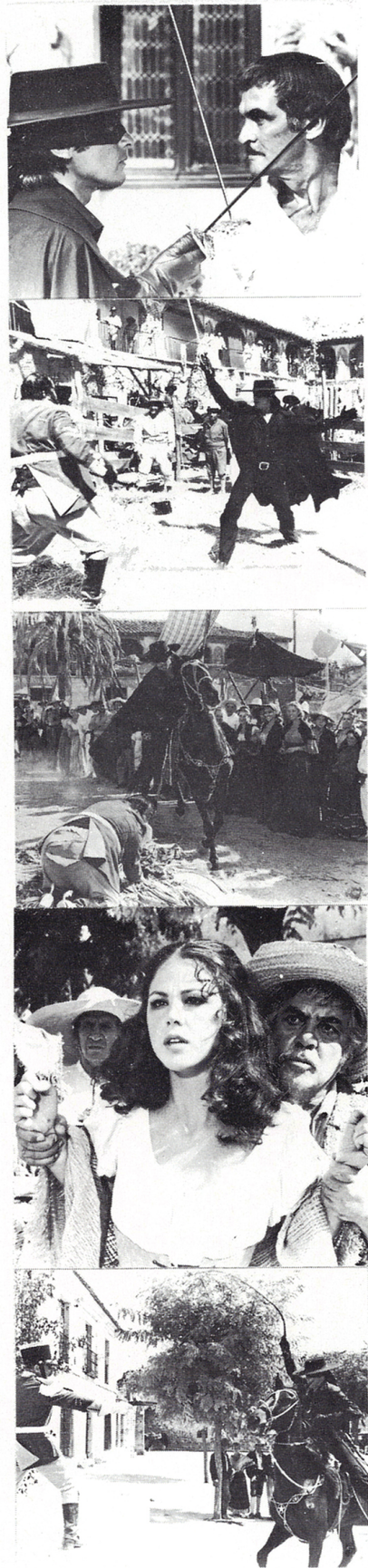
ディエゴの思いがけない出現によってウエルタの野心はうちくだされたが、相手が軟弱な貴公子と知って内心ほくそ笑んだ。しかしそれがディエゴの計略であることはもちろん知らない。その間にもディエゴはお忍びで民情を視察し、悲惨な現状を知った。一人の黒人少年があちこちに書き記す「Z」の文字——悪を憎み不正をただすという伝説の黒い狐＝ゾロ(ZORRO)のイニシャル——がディエゴを喜ばせた。

それ以後、兵隊の横暴、裁判官の不正、弾圧などで民衆が苦しむたびに、黒馬に乗った黒衣の剣士が現われ、彼らを助けることが続いた。人々は、この謎の剣士を「ゾロ」と呼んで歓迎した。だがウエルタにとって、このゾロこそ、目障りな存在、不快きわまる相手だった。一計を案じたウエルタは、かねて圧政を非難する誇り高き伯爵令嬢オルテンシアを人質にしてゾロをおびき出そうとしたが失敗、逆にゾロのために、彼女を奪い取られるはめになった。だがこの計画



仏伊合作/東宝東和提供

ALAIN DELON in  
**ZORRO**



はウエルタのほかは総督つまりディエゴしか知らないはず。彼を疑い始めたウエルタは、ディエゴに迫って、ゾロを誘い出すエサになるように仕向けた。だが、意外にもゾロはほかにいた。さんざんに翻弄されているあいだに、こんどはディエゴまでゾロに誘拐されてしまう。しかし、ウエルタは総督の命よりもゾロを倒すことが重大だった。追いつめられたゾロは、ディエゴの乗った馬車もろとも断崖から海中へ落下していった。しかし……。

邪魔者を一挙に葬り去ったウエルタは、かねて横恋慕していたオルテンシアに結婚を迫った。もしさからえば両親の命が危ないのだ。結婚式の当日、得意満面のウエルタの目前にゾロが突然現われ、最後の決闘を挑んだ。総督の広大な城館いっぱい、火花を散らすゾロとウエルタの壮絶な死闘が続く……。

## ■映画の原点に立ち帰った空前の面白さ!

アメリカ人作家ジョンストン・マッカレーの原作を「遙かなる青い海」などのジョルジオ・アルロリオが自由・大胆に脚色、「ビッグ・ガン」でドロンの初コンビを組み、みごとなアクション大作を世に送った鬼才ドゥッチョ・テッサリがふたたびチームを組んで、壮麗にして痛快なロマン・スペクタクル巨編を構成した。語り口のうまさ、面白い映画づくりで定評のある監督だけに、快調なテンポ、随所にもりこんだアクションで全編2時間をうめつくしている。特にラスト15分間に及ぶ決闘シーンは、これまでの最高といわれる映画「シーホーク」のそれを遙かに上まわる名クライマックス(仏『ル・パリジャン・リベレ』紙)と絶賛され、映画史上に永く残るに違いないだろう。このシーンだけに5週間もかかったというからすごい。殺陣を担当したイワン・シフルは、10の決闘をまとめ、20に及ぶアクションをここに集約させたが、撮影中に折れた剣は何と400本に及んだ。この間、スタントマンをほとんど使わずドロンは8キロもやせたという。最後にこの映画に寄せられた賛辞を紹介しておこう。

### ★ドロンの勇気、最後の華麗さ、

15分間の目くらむ決闘、夢のような狂宴。ほかに何を望めようか? われわれに青春を呼び戻してくれる映画。(仏『ル・フィガロ』紙)

### ★ドロンのゾロはフェアバンクスのごとく跳び、ブルース・リーのごとく空に舞う。

(伊『ジョルナーレ・ディタリア』紙)

